

# 平成22年度 四国防災トップセミナー

## ■実施概要

- ・ 実施目的：四国東南海・南海地震対策連絡調整会議構成メンバーと地域防災のトップである市町村長との意見交換を通して地域防災力の強化を図る
- ・ テーマ：「大規模災害の被災地としての経験から学ぶ」  
大災害を経験した自治体の当時の首長に、現場の責任者の立場から、具体的な被災状況や復旧・復興の状況と、事前準備・対策の必要性、防災・復興課題などの地域防災力向上に向けたアドバイスをいただき、地域の対応のあり方を学んだ

# これまでの開催経緯

年 度	内 容	講演者	参加者	
			首長	代理
H12	ロールプレイング演習【水害】 (高知県高知市)	—	・四国4県市町村長等 約300名	
H13	ロールプレイング演習【水害】 (愛媛県大洲市)	—	—	
H14	ロールプレイング演習【水害】 (徳島県鳴門市)	—	・徳島県内25市町村長 ・市民等約520名	
H15	ロールプレイング演習【水害】 (香川県丸亀市)	—	・香川県内37市町村長 ・市民等約500名	
H16	ロールプレイング演習【地震】 (高知県高知市)	—	・高知県内46市町村長 ・議長等約500名	
H17	基調講演	東京大学地震研究所 阿部教授	・四国内44市町村長 ・各担当者約500名	
	テーマ			
H18	基調講演	徳島大学 村上教授	・市町村長46名 ・連絡調整会議メンバー	—
	テーマ			
H19	基調講演	群馬大学 片田教授	・市町村長62名 ・連絡調整会議メンバー	13名
	テーマ			
H20	基調講演	池内内閣府 参事官	・市町村長34名 ・連絡調整会議メンバー	30名
	テーマ			
H21	基調講演	徳島大学 中野教授	・市町村長45名 ・連絡調整会議メンバー	30名
	テーマ			
H22	基調講演	NPO法人防災サポートおぢや 関理事長	・市町村長50名 ・連絡調整会議メンバー	34名
		豊岡市 中貝市長		
	テーマ	復旧・復興は震災時から 私たちはどのようにして台風災害と闘ったか 大規模災害の被災地としての経験から学ぶ ～復旧・復興期における地域の対応のあり方について～		

# 平成22年度 四国防災トップセミナー開催

日時：平成23年2月3日（木）14：30～17：00  
場所：四国地方整備局 13F 災害対策室  
出席者：四国内の市町村長84名（本人50名）と四国東南海・南海地震対策連絡調整会議メンバー等で約300名

## ■ 基調講演

『復旧・復興は震災時から』

NPO法人防災サポートおぢや

理事長 関 広一（前小千谷市長）

『私たちはどのようにして台風災害と闘ったか』

兵庫県豊岡市長 中貝 宗治

## ■ 意見交換会

基調講演者と出席者との意見交換

・ステージ1 事前対策～発災直後の初動期

- 職員の配備と物資の備蓄対応
- 住民からの要望とその対応
- 国・県・町との連携と今後の対策
- 避難勧告や指示、減災対応

・ステージ2 復旧・復興期

- 災害対策本部と議会との調整 など

◇コメンテーター

- ・NPO法人防災サポートおぢや  
理事長 関 広一
- ・兵庫県豊岡市  
市長 中貝 宗治



【セミナー実施状況】



【セミナー実施状況】



【中貝市長】



【関理事長】



【NHKニュース総合「おはよう日本」  
（四国ローカル版）】



【意見交換実施状況】

※本セミナーは今回で通算して11回目の開催。

# 四国防災トップセミナー（新聞記事）

四国新聞(平成23年2月6日)

## 被災時自治体トップは心構え、行政課題探る

四国内の自治体の首長や国の出先機関の代表らが参加する「四国防災トップセミナー」が6日、高松市の高松ソート合同庁舎で開かれた。出席者は、2004年の新潟県中越地震を経験した元首長の講演を通じ、自治体トップとしての心構えや被災後行政として取り組むべき課題などを学んだ。

セミナーは四国地方整備局の前市長、関広一さんが司会を務め、高松市の高松ソート合同庁舎で開かれた。出席者は、2004年の新潟県中越地震を経験した元首長の講演を通じ、自治体トップとしての心構えや被災後行政として取り組むべき課題などを学んだ。

「ラジオを聴いたり、調」住民に安心を与えるために、まずは職員が見聞をメッセージを発信し続けることが重要だと述べた。また、被災した兵庫県豊岡市の中越地震を振り返り、過去の経験から学ぶべきことを述べた。

「金や労を惜しまず、住民」このほか、04年の台風での生命、財産を守ることを被災した兵庫県豊岡市の中越地震を振り返り、過去の経験から学ぶべきことを述べた。



四国防災トップセミナーの様子。高松市で開かれた。出席者は、2004年の新潟県中越地震を経験した元首長の講演を通じ、自治体トップとしての心構えや被災後行政として取り組むべき課題などを学んだ。

日刊建設通信新聞(平成23年2月10日)

徳島新聞(平成23年2月4日)

## 大規模災害対策探る

高松市内

四国4県の行政機関に「四国防災トップセミナー」を開催する。高松市が3日、高松市内の高松ソート合同庁舎で開かれた。出席者は、2004年の新潟県中越地震を経験した元首長の講演を通じ、自治体トップとしての心構えや被災後行政として取り組むべき課題などを学んだ。

「被災時は住民の生命、財産を守る」が基本で、予算を問わずにやるべきだ。中良氏は「自助に努める」と話した。

「被災時は住民の生命、財産を守る」が基本で、予算を問わずにやるべきだ。中良氏は「自助に努める」と話した。

日刊建設工業新聞(平成23年2月10日)



## 被災経験テーマに防災セミナー開催

四国地方整備局は3日、四国内の市町村長や四国東南海・南海地震対策連絡調整会議のメンバーなど約300人対象に、「過去の大規模災害に学ぶ」と題して、また同年の被災経験テーマに防災セミナーを開催した。

「被災時は住民の生命、財産を守る」が基本で、予算を問わずにやるべきだ。中良氏は「自助に努める」と話した。

## 災害時危機管理学

四国首長ら30人参加

四国4県の自治体の首長ら約30人が参加する「四国防災トップセミナー」が3日、高松市で開かれた。出席者は、2004年の新潟県中越地震を経験した元首長の講演を通じ、自治体トップとしての心構えや被災後行政として取り組むべき課題などを学んだ。

「被災時は住民の生命、財産を守る」が基本で、予算を問わずにやるべきだ。中良氏は「自助に努める」と話した。